（別添）

令和５年度「ちばっ子学び変革」推進事業（「学力・学習状況」検証事業）研究状況報告書

木更津市立畑沢小学校

１　学校紹介

本校は、学級数２１（特別支援４）で児童数５００名を超える中規模校である。

「未来を生きる畑沢っ子の育成～人とのつながりの中で、知・徳・体のセンスを磨く～」を学校教育目標に掲げ、学力指導の充実(学力向上)やＩＣＴの活用を重点として取り組んでいる。また、目指す児童像の１つにある「よく考え進んで学ぶ子」の具現化に向けて、①主体的・対話的で深い学びの実現②国語力の向上③少人数指導の活用④家庭との連携を指導の中心に捉え、日々の教育活動の実践にあたっている。

２　研究主題

「進んで自分の考えを表現しようとする児童の育成」
～書く活動を取り入れた国語科学習指導の工夫～

３　研究の概要

（１）児童の実態と課題

過去２年の全国学力・学習状況調査の結果から、国語科の平均点は全国や県平均には届いていない。特に内容項目「書くこと」で問題形式が「記述式」になると大幅に正答率が低くなる。しかし、それ以上に本校の課題となったのは、記述式のすべての問題で、県や全国平均より無解答率が高いことだ。条件作文（①資料の活用②文章の言葉を入れる③決められた文字数）の問題になると、１つも条件を満たせない児童や無解答児童は、全国や県平均より大幅に高く目立った。

下記の結果は、校内で独自に行った「書くこと」に関する意識調査である。

①　作文や意見文を書くことが得意ですか？
得意（２１％）どちらかというと得意（１９％）ふつう（３３％）
どちらかというと苦手（２１％）苦手（６％）
②　１００文字程度の文字を１週間にどれくらい書きますか？
ほぼ毎日（５％）４、５回くらい（５％）２、３回くらい（１７％）１回くらい（３１％）
全く書かない（４２％）

上記の結果から、「書くことへの意欲が低い」「書くことへの苦手意識」「文章を書く機会が少ない」という３つの課題が見えてきた。

児童の実態を受けて、次のような仮説を立てた。

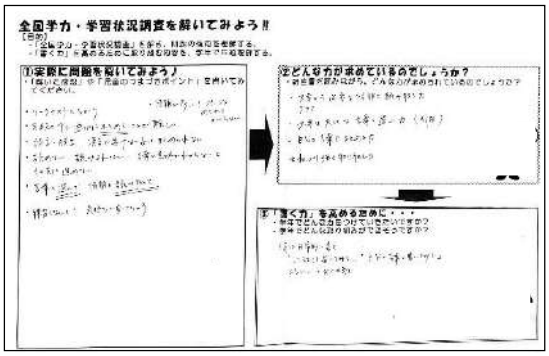
国語科の学習の中心に書く活動を継続的に取り入れ、児童の意欲を高められるような学習の工夫をすれば、主体的に表現しようとするだろう。

自分の考えを文章で表現できる経験を積み重ね、「書きたい」「書けた」という意欲を持たせる学習過程を工夫し、その思いを持続させなるなど、自分の考えを主体的に表現できる児童の育成を図っていく。

（２）学力向上のための取組

①「全国学力・学習状況調査」を見通した授業改善

問題を解いたことがない職員も多かったので、全職員で国語科の記述式の３問を解き、どのような力が求められているのか等を、学年ごとに話し合いを行った。



活用したワークシート

以下は、話し合いの流れと話し合った内容である。

a　問題を解いた感想

・情報量がとても多い。
・読みとれないと、書けない、進めない。
・消すと時間がかかるため、下書きが大切。
・キーワードを抜き出せないと、解けない。等

b　求められている力

・文章から必要な情報を読み取る力、選ぶ力
・必要な言葉を選ぶ力
・自分の考えを言葉でまとめる力
・粘り強く取り組む力　等

c「書く力」を高めるための、学年ごとのこれからの取り組み

・語彙を増やす　・「てにをは」を正確に使える。　・文章を読み取る力、読書
・「自分だったら」の視点で日頃から書く。　・興味があるテーマで書き、習慣づける。
・文章を書くための柱立て、要約、条件はヒントという意味を教え、前向きに取り組ませる。
・間違えても大丈夫という気持ちを持たせ、気軽に書かせていく。

〈全職員で問題を解く〉

〈学年で取り組みを話し合う〉

②　「授業改善」に向けた講話

南房総教育事務所の上代博行指導主事より「実践プログラムの活用について」や碇山智生指導主事より「進んで自分の考えを書いて表現したいという思いを持たせる国語科の学習指導について」の講話を受けた。

授業改善に向けて①学習課題の質をあげる②語れる集団作り③見方・考えが働く学びを意識した授業づくりを行う。「学習者の視点」と「授業者の視点」が相互に関わることで、主体的・対話的で深い学びの実現へつながり、資質・能力の獲得や生きる力の育成となっていくことを学んだ。

③　継続した「書く活動」（短作文）の実践

目　的：①児童が「書きたくなる」テーマを設定することで【書かされる】から【書きたい】という思いを育てていく。
②書く活動を継続的に取り入れることで、【書き慣れ】させていく。

時　間：週に１度、１０分間の朝の短作文を取り入れていった。テーマは、事前に知らせる。

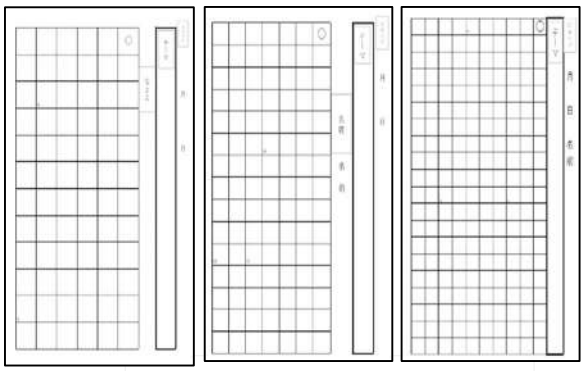
テーマ：年度当初に、低・高学年別にテーマ一覧表を作成し、学年でその中から決定する。

用　紙：文字数の違う作文用紙を３種類用意し、児童が用紙を選択する。

交　流：①学年１名ずつ選出した作文を担当職員が、パソコンに入力し、作文広場に掲示する。
②各教室で紹介したり、読み合ったりする。

たけの子タイム☆短作文テーマ例一覧表（低学年）

テーマ	内容
夏休み楽しかったこと（5/12）	絵を通じ夏の思い出を作成
将来（　/　）	学校で将来を考察しレポート作成
楽しかったこと作文（　/　）	遠足・お楽しみ会、楽しかったこと
あいうえお作文（　/　）	「はだかだ」「自分の名前」「先生の名前」など何でも楽しいね♪
ありがとう作文（　/　）	いろいろな人や物に日頃の感謝を伝えてみよう。「ごめんね」も忘れず
なりきり作文（　/　）・生活科見つけたらなりたい自分	校長の先生、校長先生、家族、友達になって、何をする？など・みんなで！このテーマでも、バラバラでも・・・☆
音楽の鑑賞行（　/　）	こんな鑑賞会だったら最高！
うそ作文（　/　）	「昨日の給食は・・・」「休みの日にOOに会ったよ」など
見たまま作文（　/　）	先生や友達が目の前でやったこと、それを観察してみよう。
観察文 or かもしれない文・（　/　）	目の前に見てることない「りんご」や「ぼうし」などを書いて観察してみると、気づきをたくさん書いても良い。ヨシタケシンスケの絵本「りんごかもしれない」等に、OOかもしれないでも面白い。
宝物・好きなもの紹介（　/　）	本物の宝物・これから宝物になる予定のものなど。
あったらいいな!!（　/　）	こんなものがあったら、楽しいな!!便利だな!!面白いな!!
アフター・ストーリー（　/　）	読む絵本の続き話を少しだけ書いて出版することになったよ。・登場や事柄に絵本を読み聞かせをしてみても良いですね。!
何て言っているかな?（　/　）	絵をイラストを見て、どんなせりふを言っているかな?
イラスト・ストーリー（　/　）	絵本のイラストから、どんな話になるか考えてみよう。



たけの子タイム☆短作文テーマ例一覧表（高学年）

テーマ	内容
究極の選択どちら を選ぶ？・（　/　）	「パンとご飯」「赤信号と起床」どっちが嫌い？どっちが役立つ？など・「ありと蟻」どっちが強い？「大人と子ども」どっちが強い？・「電話と携帯」どちらが将来役に立つ？「嫌われ者のお金持ち、みんなに好かれる貧乏人」どっち
スリーキーワード作文（　/　）	3つのキーワードを入れて、物語や日記のようにうそ作文を書く。
かっこいい・可愛い探べ（　/　）	何番でかっこいいと思う言葉を見つけよう。
私の取扱説明書（　/　）	自分の特徴を友達に伝えてみよう。
漢字一字で表すと（　/　）	自分や学級・先生を表す漢字一字とその理由
登場人物を変えてみると・・・・（　/　）	「ちびたろうの中嘘」「浦島太郎の亀」「うさぎとカメ」登場人物を変えるとしたら、どうなるかな?
The 道徳力（　/　）	学校から家までの帰り方を先生にわかりやすく説明しよう。
提案説得行（　/　）	どこへ、何をしに!!もしかしたら現実するかもしれない遠足プラン☆
替え歌作文（　/　）	「ドレミの歌」「もりのくまさん」「そうだったらいいのに」「さんぽ」など、みんなの知っている童謡や童話で作詞家デビュー☆
ラブレター（　/　）	大好きな人・手放せない物に向けて、愛を伝えよう。
未来の自分へ（　/　）	仕事の後の自分、1週間、1ヶ月、1年、何十年、未来の自分へ・・・
もしもOOが話せたら・・・・（　/　）	自分以外の物がとまったら、擬性になってしまったらなど、同じテーマでも、自分で考えてもいいですね☆
Q&A作文（　/　）	「どうしてアリはかさいの?」「キリンは首が長いの?」「どうして鳥は空を飛べるの」うそでも大丈夫!!相手を納得させちゃおう☆

〈低・高学年別のテーマ一覧表〉

〈各自で選べる３タイプの作文用紙〉

〈掲示している作文〉

〈短作文ひろば〉

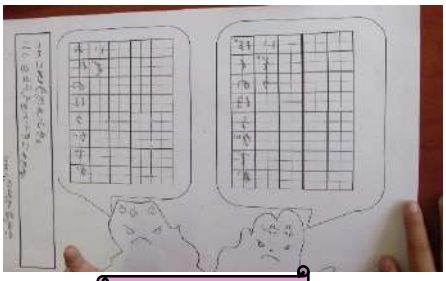
③ 授業研究会（年２回）

授業の中に「書けそう」「書きたい」という意欲が持てる学習過程の工夫、その意欲を持続させながら、自分の考えが表現できる児童の育成を図っていけるような授業を展開する。

〈各学年の展開授業と取り入れた書く活動〉

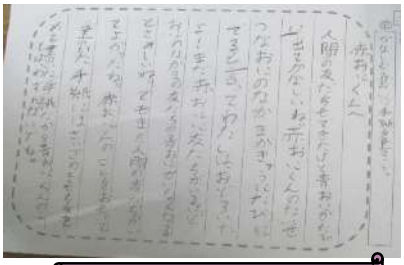
学年	単元名（上段）教材名（下段）	本時の中の書く活動
1	「けんかした山ブックをつくろう」 『けんかした山』	けんかをしている山の表情を描き、色塗りを行い、全体で共有後、吹き出しに山のせりふを書く。
2	「本を楽しもう」 『ないた赤おに』	登場人物の行動や様子を読み取った後、赤おにに向けた手紙を書く。
3	「絵文字の特長をとらえよう」 『絵文字とくらし』	教師による報告書モデルと構成メモを活用し、原稿内容について児童同士で話し合い、報告会の発表原稿を作成する。
4	「不思議な言葉を意識して【印象的な結末】のある物語の設定や展開を書こう」 『ショートショートを書こう』	教師モデルの結末を「楽しい」「悲しい」「こわい」などのカテゴリー別に結末をいくつも考え、文章にまとめる。
5	「学年図書フェスティバルを開こう」 『図書すいせん会をしよう』	教師モデルを提示し、学年図書フェスティバルでおすすめする本を〈あらすじ〉〈印象的な場面〉〈自分の思い〉などを入れて、推薦文を書く。
6	「きみの世界・ぼくの世界・〇〇の世界」 『きみの世界　ぼくの世界』	事例ごとに筆者の考えと自分の考えを積み重ねることで、最後に教材全体を通した筆者の心をまとめる。また、同じ筆者の他の哲学書を読み、重ね読みを行い、更に考えを深めた。

１年生「けんかした山」



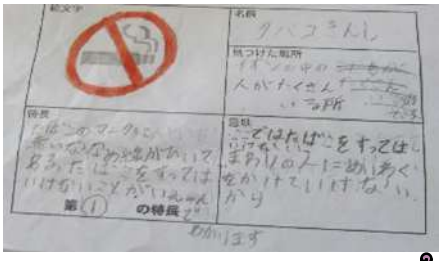
せりふ

２年生「ないた赤おに」



登場人物へのお手紙

３年生「絵文字とくらし」



絵文字発表会の原稿

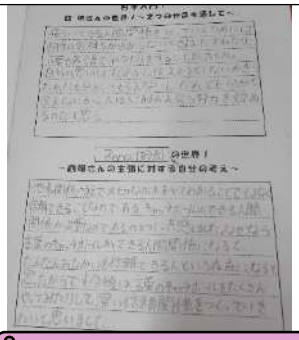
４年生「ショートショートを書こう」

結末作り

５年生「図書すいせん会をしよう」

おすすめ本の推薦文

６年生「きみの世界・ぼくの世界」



筆者の心＋自分の経験
→自分の哲学

（３）加配教員（学習サポーターを含む）の活用

【指導体制】加配教員を高学年の国語科のＴ２として、週２０時間の配置。

【指導内容】

① 児童への支援

・支援を要する児童の個別指導を行う。

・ペアやグループの話し合いが円滑に進むような声かけをする。

② Ｔ１への支援

・Ｔ１として授業を進める。　・範読や児童の音読の確認を行う。　・指名計画の補助

・一緒に教材研究を行う。　・児童の意見や教科書の文章を板書する。

・ドリルやプリントの採点。

４　成果

○児童が、文章を書き慣れてきたため、全く書けなかった児童も、少しずつ書けるようになってきた。朝の短作文の時間は、黙々と鉛筆を動かし集中する姿があった。

○単元を貫く言語活動を設定したことで、児童が相手意識や目的意識を継続しながら学ぶことができた。また、教師は、ゴールがはっきりしているため、つまずく場面の理解や支援など、より細かな指導を行うことができた。

５　今後の課題

▲短作文や授業の中でも、児童の書く活動の中で、意欲・内容や文量の個人差が広がってしまった。そのため、児童に応じた個別支援や手立ての工夫が必要である。

▲授業研究会では、「書く活動」を中心に行ったため、書いたものを交流する時間の設定や交流する視点の明確さについての取組は十分ではない。書いた後に、どのような活動をするか考えていかなくてはならない。